

## 《安全衛生管理規程を制定》

代表取締役社長 中田 義秀

「安全衛生管理規程」を平成28年10月1日に制定しました。

これまで当社の安全衛生に関しては、「就業規則」の定めに基づいて運用してきましたが、細部についての定めがなく責任の所在がはっきりとしていない状況が見受けられました。

新しく制定した「安全衛生管理規程」は、安全衛生に関する基本的事項を明確にし、従業員の安全と健康を確保するとともに、快適な職場環境の形成を促進することを目的として定めています。

その内容は、

- 第1章 目的や会社の責任と従業員の義務等を定めた「総則」
- 第2章 安全管理者、衛生管理者等の指名及びその職務を定めた「安全衛生管理体制」
- 第3章 安全衛生委員会の設置及び運営を定めた「安全衛生委員会」
- 第4章 安全衛生教育や就業制限等を定めた「就業に当たっての措置」
- 第5章 作業環境測定や整理整頓等を定めた「職場環境の整備」
- 第6章 健康診断及び面接指導等を定めた「健康診断」
- 第7章 有所見者に対する措置や病者の就業禁止等を定めた「健康の保持増進措置等」
- 第8章 本規程の改廃や罰則を定めた「雑則」

を主体として構成しています。

この規程に基づいた運用は、順次計画的に整備していきませんが、従業員の皆さんも安全衛生の意識をさらに高めていただき、より快適な職場環境を創造するよう努めてください。



## 安全管理



安全衛生管理規程の制定に関連して、今回は職場の安全管理に関する情報を提供します。

### 危険予知

安全管理を徹底するためには、危険予知活動を行なうことが重要であることは皆さんご承知だと思います。

ところで、危険予知とはいったいどんなことでしょうか？

人間は、つい「うっかり」や「ぼんやり」したり、横着して近道や省略行動をすることがあります。このような人間特性による誤った行動（ヒューマンエラー）と、設備面や管理面での不備が原因で事故・災害は起こります。

これをなくすには、機械設備などを安全にすると同時に、ヒューマンエラーを防ぐための「人」の面の対策が必要です。

この「人」の面での対策に有効な手段が「危険予知」（KY）です。作業の前に、その作業に「どんな危険が潜んでいるか」みんなで話し合い、「ここが危ない」と危険予知（KY）する。そしてその「危ない」状況への対策を決め、即実行する。このような日々の危険予知活動は、ヒューマンエラー事故防止の決め手です。

### どんな危険が潜んでいますか？

【想像できる危険性を自由に抽出してみましょう！】



作業

脚立に昇って窓ガラスを清掃している

性別

女性

年齢

60代

経験

4年

作業場所

屋外

#### 《危険の洗出しの例》

- ①窓ガラスと脚立の距離が遠かったため、バランスを崩して転落する。
- ②脚立の足元にバケツをおいていたため、バケツに躓いて転倒する。
- ③脚立の開止めをかけていなかったため、脚立の脚が開いてしまい転落する。
- ④脚立をまたいで作業をしていたため、バランスを崩して転落する。
- ⑤ヘルメットを着用していなかったため、転落、転倒した際に頭部に重大な負傷をする。

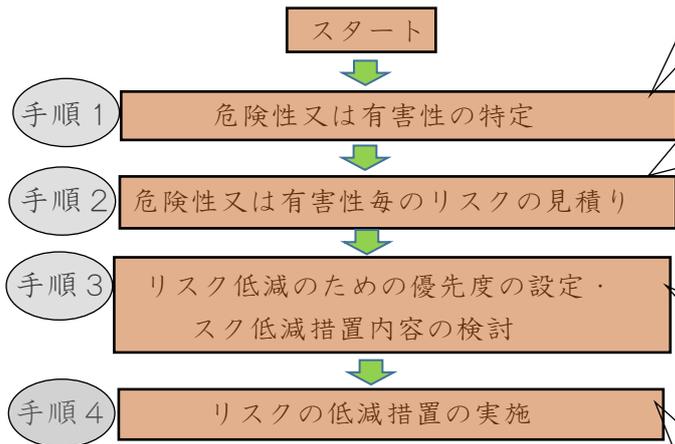


# リスクアセスメント

リスクアセスメントは、職場の潜在的な危険性又は有害性を見つけ出し、これを除去、低減するための手法です。

平成18年4月1日以降、リスクアセスメントの実施が労働安全衛生法により努力義務化されています。

## リスクアセスメントの基本的な手順



**手順1** 機械・設備、原材料、作業行動や環境などについて危険性又は有害性を特定します。ここでの危険性又は有害性とは、従業員に負傷や疾病をもたらす物、状況のことで、作業者が接近することにより危険な状態が発生することが想定される者を言います。危険性又は有害性は「はざード」ともいわれます。

**手順2** 特定したすべての危険性又は有害性についてリスクの見積りを行ないます。リスクの見積りは、特定された危険性又は有害性によって生ずる恐れのある負傷又は疾病の重篤度と発生可能性の度合いの両者の組み合わせで行ないます。

**手順3** 危険性又は有害性について、それぞれ見積もられたリスクに基づいて優先度を設定します。

**手順4** リスクの優先度の設定の結果に従い、リスクの除去や低減措置を実施します。リスク低減措置は、基本的に次の優先順位で検討、合理的に選択した方法を実施します。

- ① 設計や計画の段階における危険な作業の廃止、変更等
- ② インターロックの設置等の工学的措置
- ③ マニュアルの整備等の管理的対策
- ④ 個人用保護具の試用

### ●実施時期

- ・ 設備、原材料、作業方法などを新規に採用し、又は変更するなどリスクに変化が生じたとき実施
- ・ 機械設備等の経年劣化、従業員の入れ替わり等を踏まえ、定期的の実施
- ・ 既存の設備、作業については計画的に実施

## リスクアセスメント導入による効果



- ① **職場のリスクが明確になります**  
職場の潜在的な危険性又は有害性が明らかになり、危険の芽（リスク）を事前に摘むことができます。
- ② **リスクに対する認識を共有できます**  
リスクアセスメントは現場の参加を得て、管理監督者とともに進めるもので、職場全体の安全衛生のリスクに対する共通の認識を持つことができます。
- ③ **安全対策の合理的な優先順位が決定できます**  
リスクアセスメントの結果を踏まえ、会社は全てのリスクを低減させる必要がありますが、リスクの見積り結果等によりその優先順位を決めることができます。
- ④ **残留リスクに対して「守るべき決め事」の理由が明確になります**  
技術的、時間的、経済的にすぐに適切なリスク低減措置ができない場合、暫定的措置を講じた上で、対応を従業員の注意に委ねることになります。この場合、リスクアセスメントに従業員が参加していると、なぜ、注意して作業しなければならないのかの理由が理解されているので、守るべき決め事が守られるようになります。
- ⑤ **職場全員が参加することにより「危険」に対する感受性が高まります**  
リスクアセスメントを職場全体で行なうため、他の従業員が感じて危険についても情報が得られ、業務経験が浅い従業員も職場に潜在している危険性又は有害性を感じることができるようになります。



## (カープ リーグ優勝)

広島東洋カープが25年ぶりに見事リーグ優勝を果たしました。  
多くのファンがこの瞬間を待ち焦がれていました。

東京ドームで親子が号泣しながら喜び合う姿や、多くのファンが広島市内に限らず各地で喜びを分かち合う姿を見て、純粋なカープ愛を感じました。

何よりも、広島心がカープにあると感じさせられたのが、テレビ視聴率の高さです。

9月10日 当日の試合はNHKが午後7時半から実況放映しました。広島での平均視聴率は60.3%、そして瞬間最高視聴率は何と71.0% これは、もう広島の人ほとんどの方がテレビの前に釘付けであったことを示しています。

今年のカープは本当に夢と希望溢れる試合をしてくれました。

その一つが、逆転勝利が非常に多かったことです。

昨年までは、リードされた時点で勝利を諦めていましたが、今年のカープは違いました。

リードされた中での試合であっても、自信に満ちた選手の顔を見ると期待感と安心感を持つことができました。そして、試合が終わってみれば見事な逆転勝利をしてくれました。

その中でも、ツーアウトからの得点、特にサヨナラ勝ちには鳥肌の立つ感動を覚えました。

また、カープファンとして誇れるのが、外国選手を除くレギュラーの選手が全てカープ生え抜きの選手だということです。

若い同世代の選手がお互いに切磋琢磨し、厳しい練習に耐え、そして見事に結果を出しています。

その選手が、他球団の高給取り(?)選手より数段上の技術と迫力を見せてくれることへの誇りです。

だからこそカープのリーグ優勝は、お金にものを言わせて主力選手を補強して優勝するチームとは、価値が格段に違うと思っています。

この「きずな」がお手元に渡るときには、クライマックスシリーズのファイナルシリーズも間近に迫り、一段とカープ愛の熱もヒートアップしていることと思います。

結果の如何に関わらず、これからも希望と感動を与えてくれる広島東洋カープをこよなく愛し、ずっと応援していきたいと思っています。



《文責 推進部N.T》